

Live!
In the Classroom

真っ赤なジャケットに、リンゴ型のブローチ、腕時計などリンゴを意識したファッション。青山学院大学などで人気の英語講師、池田紅玉先生の最近の楽しい授業を拝聴してみた。

山下 努 朝日ウィークリー

池田紅玉こと池田和子さんは、英語音声学や英語朗読法が専門で、青山学院と日本大学で週7つの授業を担当している。まずは、真新しい神奈川県相模原市の青学のキャンパスを5月22日訪ねた。

ラバレベリビルプ レベロボラポロポ/ラマレメリミルムレメロモラマロモ/生タマネギ、干シタマネギ、半生タマネギ……

これが、青学英米文科の英語の授業なのか。学生が奇妙なことを口走っているようにも聞こえるが、実は準備運動だ。指を動かす、唇や舌を柔軟にする体操、頬(ほほ)を膨らませたり、すぼめたりする体操もある。

続いて、「英語そろばん」の教育に力を入れる先生ならではの宿題の成果が試される。最大13ケタの数字をいくつも英語で一気に読む。しかも25秒以内で間違わずに英語で言う試験があり、1人、2人と合格者が出た。

続いてこの日の中心となる教材に移る。マザーグースからのReader's Theater(朗読劇)だ。英語のリズムを楽しむための適当な題材プラス朗読劇の楽しさを知るのが目的だ。積み重ね歌なので、新しいことが古いことに重なって11回起る展開で、11人で役を決めて読む。「朗読劇の醍醐(だいご)味が味わえ、学生が最もいきいきする活動で、一度経験すると、その楽しさが忘れられなくなる」(池田先生)という。メトロノームやカスタネットでもリズムをとる。

This is the house that Jack built. / This is the malt, / That lay in the house that Jack built. / This is the rat, / That ate the malt / That lay in the house that Jack built. / This is the cat, / That killed the rat, / That ate the malt / That lay in the house that Jack built ... といった具合に続く。先生が持参したモデルのビデオを見て、気分を高める。最後は生徒が2グループに分かれて、自分たちで振り付けをするなど、英語劇のようなアレンジをする練習だ。

普段使うテキストは自著の『すばらしい英語朗読・音読の世界』(教育出版)。CDが付いており、先生が米カリフォ

魔法の仮名、英語朗読、英語そろばん・・・ 退屈しない学習法を次々



ルニア州立大学大学院で学んだ恩師が吹き込んでいます。

学生に大人気

この英米文学科2年生対象の英語朗読法(オーラル・インタープリテーション)の授業は、人気が高いため、受講者は試験か、くじ引きで選抜される。英語の発音の研究の入り口まで教えている。「声を出すといった五感を使う授業の内容は記憶に残る」「楽しさは学習意欲につながる」といった信念が授業の工夫の熱意につながっている。

AWの読者でもある曲師(まげし)彩さん(2年)は、「自然なリズム、イントネーションが早口言葉やリズムの訓練で楽しくやっているうちに身につくんです。高校時代にESSで英語劇をやっていた英語が大好きで、英語関連の仕事

したい」と瞳が輝く。友人で同学年の中田桃花さんは「先生のお人柄がおちゃめなので大好きです。授業には小道具がたくさん出てくるのでとても楽しいですよ」という。

生涯学習も愉快的英語で

5月25日は、ところ変わって目の学習院生涯学習センター。池田さんは、毎月、ここで大人を対象に「魔法の仮名」を使って英語の歌を教えている。受講生の平均年齢は大学生の3倍、ブレスリー世代といったところ。

ここでは、商標登録した「魔法の仮名」などユニークな池田式英語教授法がフル回転だ。この日学ぶ『テネシーワルツ』の発音は「魔法の仮名」では「テ・ナ・スイー う オウツ」となる。太字の部分は強く読む。「魔法の仮名」では日本人から見て難しい発音は、ひらがな、それ以外はカタカナで表記している。よりnative English speakerの発音に近くなるよう、少々、誇張があるような表記だが、これが発音のコツである。

例えば、Thank youを池田式に教えようと、「Thank you」は「てアン・キユ」。池田先生は「気軽に『サンキュー』と言いますが、『Th』は『さ行』の音とは全然違ってむしろ『た行』に近いのです」という。

thとtheの発音は徹底するため、いつも「ペロ(舌)を出して『ただいま』、『だぢづでど』といいましょう」といって見本を示す。会場からやはりクスクス笑い声。

1 普段は縁のない訓練法で、手、口、顔をフルに動かして、「英語脳」が刺激されるようだ

2 クラスを2つに分けて朗読練習する。4月から始まったばかりの講義で、先生の期待する熱演の域に入るのは夏場だろう

3 英語腹話術で使う縫いぐるみや人形が自宅にたくさんある。「家族が多くて大変よ」と先生

Photos by Tsutomu Yamashita

人形を持ってきて、英語腹話術で教えることもある。

この日は、江利チエミ、美空ひばりが歌う『テネシーワルツ』のビデオを上映して気分を盛り上げた。歌詞を飲み込んでもらうため、「これは失恋の歌で、友達に彼(彼女)を紹介したら、とられちゃったという話で、ここにいるみなさんも、きっととったりとられたりの人生でしたよね。だから男性が歌う場合は、herのところをhimになります」と笑いをとった。

3カ月間の5回の授業でエルビス・プレスリーの名曲など約7、8曲を「魔法の仮名」でマスターする。

受講生の新宿区の近藤順子さん(74)は、「終戦時は中学生で、それまで英語を勉強できなかった。米国にいる親せきが家にきても発音が悪いとわかってもらえないので、家でもテキストについているCDを聞いています」。

また、豊島区の竹内里美さんは「家でカタカナ書きの英語を大きめに読むと、娘たちからは笑われるのですが、ミルク(milk)はミウ(ク)という感じで意識的に発音したら海外旅行ではよく通じました」という。



4 川崎市の自宅書斎に様々なリンゴ・グッズが飾ってある

5 アラレちゃんが魔法の仮名を教える集英社の本は2001年刊

New leaves are beginning to sprout. (新しい葉が生え始めた)の sprout には「大量に出現する」の意味もあり、Convenience stores are sprouting up in my neighborhood. (近所にコンビニが次々オープンしている)のほか、Wanted posters (指名手配のポスター) sprouted on walls and lampposts. といった用法も可能。